

Award of The Year 2017

～外 来～

目 標

1. 地域住民のために、安心安全な医療・看護実践を提供する
2. 外来看護師の役割を認識し、やりがいのある看護が提供できる
3. 救急外来とステーションとの協力体制強化

新外来が開院し2年が経ちます。今年度も「外来は一つ、看護部は一つ」を合言葉に各科協力し、ブロック間や救急外来の応援だけでなく、病棟応援も頑張りました。

<今年度の取り組み>

接遇班・携帯電話サービスアンケート結果

	女主人数	今後も利用したい	利用したくない
内科	3	3	0
整形外科	22	20	1
泌尿器科	9	9	0
小児科	66	63	3

患者さんより、「待ち時間を有効に利用できて良かった」、「大変親切なサービスだと思います」等の意見をいただきました。

業務班 コスト漏れ防止、超勤時間短縮のための業務改善に取り組みました。

- *救急外来残り番の朝1時間年休取得：35%。みんなの協力のもと朝の業務調整をし、年休を取る事で主婦業ができる等の声が聞かれました。
- *小児科の残り番体制開始：超勤15h/3ヶ月 → 今まで小児科看護師1名で超勤していましたが、同じブロック内の看護師5名で担当し平均化しました。
- *日勤帯の病棟助勤：144時間（約40分/日）、夜勤帯（当直含む）病棟応援257時間（約60分/日）
- *コスト・起票漏れ：12件/9か月 = 27420円 昨年より-7件。

安全班

- *インシデントに対しRCA分析し、再発防止に努めました。救急外来新聞を発行し、6Rの徹底を働きかけました。

救急車同乗研修

救急外来が日々忙しい中、11件の同乗研修ができました。研修内容を自治体病院学会等で発表し、有意義な取り組みであると評価をされました。今後も外来からの継続看護を考え、取り組んでいきたいと思ひます。

記録班・看護記録実施状況アンケート

電子カルテ化後の現状把握のためにアンケート調査をしました。約90%の看護師が看護記録を入力していました。

記録の内容：退院後診察時の患者状況、救急外来の記録、ケモ患者病状記録など。

外来看護記録を継続看護に活かすため、質の向上を図っていききたいと思ひます。

